**曹洞宗大本山總持寺・ニコニコ法話　　　　　　　　　　　　　　　　　　 令和6年1月**

世界禅Challenge

**大本山總持寺布教教化部長　花和浩明師**

昨年の12月10日、大本山總持寺で「世界禅Challenge」の催しが行われました。この催しは、大本山總持寺御開山瑩山禅師700回大遠忌を記念して行われたものです。専門僧堂のある各寺院と總持寺をオンラインで結び、ひと月ごとに一カ寺ずつ、總持寺と合同で坐禅会を行うというものです。

当日は、北海道釧路市の定光寺と本山を結んでの坐禅会となりました。私は、本山側の様子を伝える司会者として参加させていただきました。

本山会場の大きなスクリーンには、定光寺会場の様子がはっきりと映し出されていました。200人近くの参加者が集まり、特に目立っていたのがたくさんの子供たちの姿でした。音声もリアルタイムで届き、まるで一緒の会場にいるような臨場感がありました。当日のプログラムは坐禅だけではなく、禅語の簡単な解説や、お互いにクイズを出し合うなど、初めて坐禅をする子供たちにも楽しんでいただける内容でした。ただ坐禅の時間になると、それまでのにぎやかな雰囲気は一変し、お互いの会場が静寂に包まれました。

定光寺は私が本山役寮として、かつて三年半お仕えさせていただいた、故大道晃仙禅師さまのご寺坊です。坐禅中でも、私の心には当時の禅師さまのことが次々と浮かんできました。禅師さまは子供がとてもお好きでした。近くの園児たちが参拝に来て禅師さまにご挨拶をすると、いつもうれしそうな笑顔で、子供たちに向かって優しく合掌をされておられました。子どもたちがたくさん来てくれた今回の坐禅会の様子を、禅師さまにも是非ご覧いただきたかったです。

遠く離れた二つの会場で、想いを一つにして坐禅ができるということは、とても素晴らしいことです。本年5月12日には「世界禅Challenge」として、国内と海外の各僧堂を同時に繋いで坐禅会を行う予定です。様々な課題を抱えた世界が、「禅」の心で一つになろうというこのチャレンジは、「禅」の新たな可能性を世界中に広げていく、おおきなきっかけとなるに違いありません。